

# 石田真敏 講演概要

平成 25 年 5 月 8 日  
住宅産業振興連盟セミナー

## 講演課題：「成長戦略の次の課題」

### (1) はじめに

1. 三本の矢
2. 真の成長軌道のために

### (2) 今は、どの辺りか？

1. 第三の改革期 (図 1 参照)

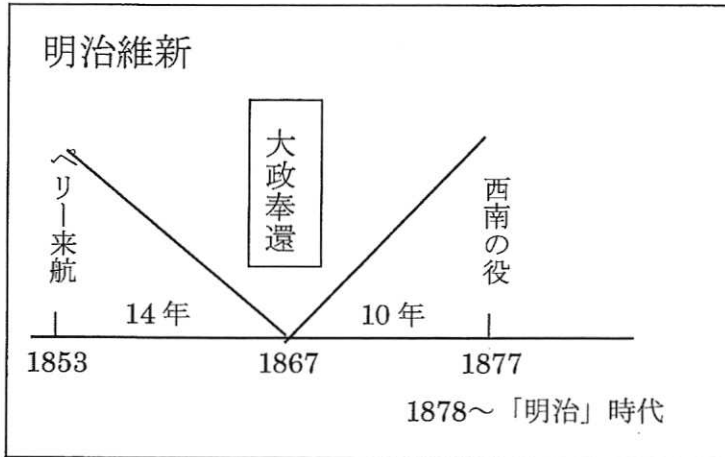
### (3) 「新平成」時代の始まり！

1. グローバル化・IT化・少子高齢化・地球環境などのトレンドが現実化
2. 世界的に可能になった数十年の展望 (図 2 参照)
3. 産業革命・第 5 の波 (図 3 参照)

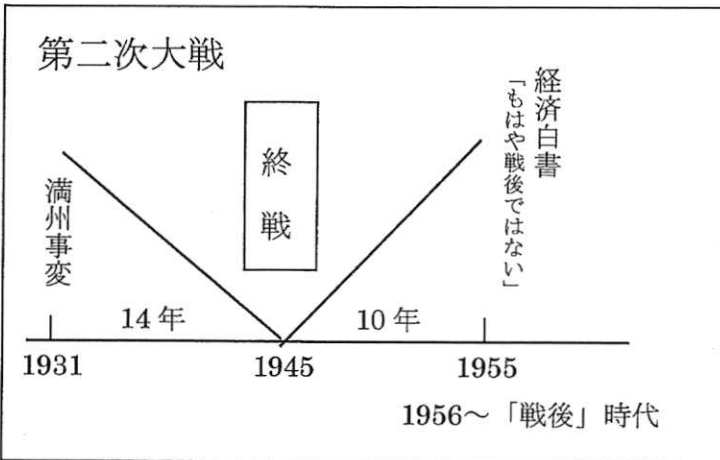
### (4) 「新平成」時代に向けた課題

1. 意識の改革と共有 ——— 新平成時代の姿
2. 経営戦略の見直し ——— 利益率重視と適正な価格・利潤・賃金
3. 企業マインドの改革 ——— 東京立地のミスマッチと地方移転  
非正規労働問題と外国人労働者問題
4. 新証券取引所の設立 ——— 株主資本主義の見直し
5. 人生 100 年時代への対応 ——— 長寿時代のシステムづくりと人生二毛作
6. 地方分権・道州制の推進 ——— 道州制基本法について

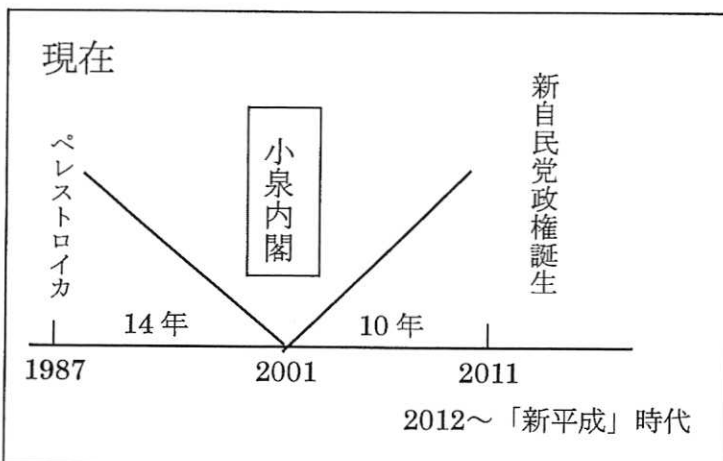
### 第三の改革期 ～いまはどの辺りか～



- 1853年 ペリー来航
- 1867年 大政奉還
- 1877年 西南の役



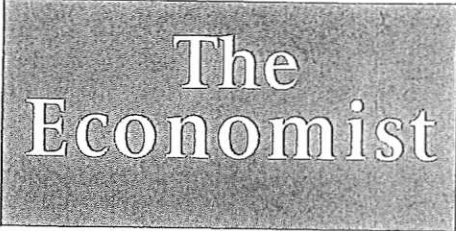
- 1931年 満州事変
- 1932年 五一五事件  
(政党内閣終止符)
- 1945年 終戦
- 1956年 経済白書 (昭和31年版)



- 1987年 ペレストロイカ
- 1989年 ベルリンの壁崩壊
- 1991年 ソビエト連邦解体
- 2001年 小泉内閣誕生
- 2012年 新自民党政権誕生

# 2050年の世界

英「エコノミスト」誌は予測する



英「エコノミスト」編集部

船橋 洋一 解説

東江 一紀・峯村 利哉 訳

## あなたの未来も見えてくる

人口、経済、技術、科学、女性、病気、ビジネス、兵器、環境、他。20の分野をグローバルな一流誌、英「エコノミスト」が徹底予測

文藝春秋刊 定価(本体1750円+税)

マッキンゼー・アンド・カンパニー 責任編集

# 日本の未来について

## 話そう

—日本再生への提言—

長谷川 閑史 ドミニク・パートン 船橋洋一 ヘンリー・トリックス トム・リード  
ケビン・マシー ゴビンダ・アバサララ イアン・ブルマ ジョン・ダワー  
エズラ・F・ヴォーゲル デビッド・サンガー スティーブン・ローチ アダム・S・ホーゼン  
クラウス・シュワブ 孫正義 岩崎夏海 ゴードン・ネール プライアン・ソーズバーグ  
岩谷直幸 前田新造 グレン・S・フクシマ 山田昌弘 ロバート・ホワイティング  
岡田 武史 ボビー・バレンタイン マイケル・グリーン 田中 均  
坂根 正弘 ポール・ブルースタイン ボブ・マクドナルド  
インゴ・ベイヤール ビター・レッシュャー 関口 和一 ビル・エモット セナパティ・ゴバラクリシュナン  
ジョン・チェンバース インゴ・ベイヤール フォン・モルゲンスターン ビター・ケネハン ウルリヒ・ネアー 稲船 敬二  
フリップ・ラドク ジョン・チェンバース エザード・オーバービーク デビッド・ヘンダーソン  
岡田 元也 ハワード・シュルツ 鈴木 栄 柴田 拓美 弘兼 憲史  
南場 智子 岡田 元也 小室 淑恵 佐々木 かをり ステイブ・ヴァンアンデル 藤原 和博  
マーサ・シュルル ヘルナール・アルノー タイラー・ブリュル グウェン・ロビンソン  
クリストファー・グレイヴス 森 稔 鈴木 伸 ピコ・アイヤー エアン・ショー

世界をリードする65人が執筆!

定価1,995円  
【送料1,000円】  
SHOGAKUKAN

GLOBAL TRENDS 2030  
米国国家情報会議 編 谷町真珠 訳

# 2030年 世界は こう変わる

「日本はもはや復活しない。  
アメリカは2年後、  
中国も12年後にはピークを過ぎる。  
すさまじい大変化が起るだろう」

アメリカ大統領も  
参考にする、  
最新の  
未来予測  
レポート

# 立花隆

講談社

# ハーバードが教える 10年後に 生き残る会社、 消える会社

Capitalism at Risk:  
Rethinking  
the Role of Business

ハーバード・ビジネス・スクールが  
100年の英知を結集し  
大予測!

株式会社  
ローワン  
代表取締役社長 CEO  
新浪剛史氏  
推薦!

迫り来る  
資本主義の  
大変化に  
あなたの会社は  
対応できるか!?

第5章 大恐慌が示す産業革命の必要性

図表 24 超長期の景気循環・産業革命の推移

	時代	原因
第1の波	1780年代末-1840年代	蒸気機関による工場制生産の登場と繊維、鉄などの発達
第2の波	1840年代-1890年代末	鉄道隆盛とそれに伴う石炭や鉄鋼産業の拡大
第3の波	1890年代末-1940~50年	電力の拡大と自動車産業、化学工業等の発達
第4の波	1940~50年-2010年代?	テレビ、エレクトロニクス、原子力が基礎技術となった産業や航空宇宙産業等の発達
第5の波	2010年代?—	資源・環境(省エネ、再生可能エネルギー、環境技術)、健康(医療革新、遺伝子工学)、労働(ロボット)、交通(高度ITS、リニアモーターカー)、生活(エコ社会、エビキタス社会、電子マネー社会)、等

(出所) みずほ総合研究所作成。